

(漢和防務評論ネット版 20130725 抄訳)

米国の対インド武器輸出と両国の軍事協力

平可夫

バンガロール

阿部信行

(訳者コメント)

インドは伝統的に欧州とロシア製武器の輸入国で、米国製武器には拒否反応があったように思っていたが、驚いたことに近年は続々と米国製軍事装備品を輸入しています。それもロシア製武器を米国製武器で更新するなど、ロシアの面子は丸つぶれです。

その理由は、第一にインド側の戦略、中国包囲網の形成にあります。米国とは中国包囲網形成で戦略の一致があり、インドは従来行き掛かりを捨てて、米国との同盟?を選択したものと思います。米国もインドの核に目をつぶっています。

米国はテロリズムに対する姿勢でパキスタンを信頼していませんが、軍事装備品でも信頼されていないようです。かつて米国に内緒で中国に米国製 F-16 戦闘機を提供したことがあります。中国は J-10 戦闘機を開発するのに同機を利用しました。

最近ロシアが中国にハイテク SU-35 戦闘機の輸出を許可したとの報道がなされていますが、これもインドと米国の急接近に対する牽制であると見ることもできるでしょう。

インドは、歴史上初めて米国製軍事装備品を続々と導入している。これは冷戦期間も冷戦終結後もなかった事態である。インドは早くから英国、フランス及びその他欧州国家の軍事装備品ユーザーであり、同時にロシア軍事装備品の最大の顧客であった。しかしインドは、従来米国の軍事装備品に対して警戒心が強かった。米国は伝統的にパキスタンに対する主要な装備提供国であったからだ。

米国とインドの軍事協力の進展は極めて迅速である。5 年も経たずに、インド政府は、国際入札を行わず、一方的に米国製装備を購入することを決定した。例えば C-17 型輸送機が典型的な例である。インド空軍はすでに C-17 を受領した。インドは合計 14 機の C-17 を購入したが、インド空軍は現役のロシア製 IL-76 型輸送機の後継機として更に多くの C-17 を購入したいと述べている。米国はインドに 2012 年に 5 機、2013 年に 4 機、2014 年に残りの 5 機を提供する。相当

大きな契約金額になる。

またインド空軍は、初めて C-130J 遠距離型輸送機 6 機の導入を開始した。このようにインド空軍の戦略輸送機部隊は、まもなく米国製装備一色となろう。

インド海軍は、P-8I 型海上パトロール機の導入を開始した。インドは、初めて P-8 を使用する海外ユーザーであり、合計 8 機導入し 2013 年は導入事業のピークを迎えることになる。

上述の米国製装備品は、偵察及び後方支援用装備品である。これだけでなく、インドは、米国製戦闘用装備品も導入するであろう。インド空軍の今後 3 年間の最優先事業は少なくとも 22 機の APACHE-D 型武装ヘリの導入であり、当然付随して米国製空対地ミサイル等一連の装備も導入される。これらの装備品だけでも 14 億ドルの金額になる。ロシア製の MI-28 型等の戦闘ヘリは落札できなかった。

また米国はインドに PAC-3 型弾道ミサイル迎撃システム、F-35、F-16F 型戦闘機を積極的に売り込んでいる。これらの装備はインドの航空ショーに何度も参加している。

上述の米国とインドの軍事協力を総合するとその特徴は次の通りである。

一、 米国がインドに売り込んでいる軍事装備品の技術水準は相当高く、如何なる制限も設けていないようだ。それらは、他の同盟国に売り込んでいる装備の技術水準と同じである。

二、 ロシアがインドに売却した軍事装備技術は、米国がパキスタンに輸出した同種のシステムよりもはるかに水準が高い。例えば戦闘機である。パキスタンに輸出したのは F-16 BLOCK52 である。武装ヘリ、輸送機の多くは先代型か中古品である。海上パトロール機の P-3C も早期型である。この施策は、主として中国とパキスタンの軍事的結び付きを防ぐためである。したがって上述武器の対パキスタン輸出に際しては、米国は厳格な審査規定を設けており、中国人がこれらの米国装備品に接近することを防止している。しかしインドに対しては、このような制限を設けてはいない。

パキスタンは外貨準備が乏しいため、インドのように大盤振る舞いで米国製装備を購入することはできない。米国がパキスタンに輸出する軍事装備品の水準が高くない理由として、客観的にはこの点を指摘できる。しかし根本的な理由は、パキスタン政権のテロリズムに対する態度に米国は不信感を持っているか

らだ。

大国間の軍事協力関係は、市場の論理をはるかに超越している。米国とインドの前代未聞の軍事協力、及び中露の SU-35 戦闘機の売買に関する動向など、実際上は、現実の政治の需要に従った動きであり、武器の性能や価格で決まるのではない。この点は、一部の小国の軍事装備品輸入環境とは相当異なる。後者（一部の小国）は公平な市場競争環境にある。例えば、クエート、サウジアラビア、UAE は、入札制度に従って西側と性能が同じ製品、すなわち価格が安い中国製を最終選択している。例えば PAZ-45 型自走榴弾砲、KRASNOPOL 型誘導砲弾である。UAE は、HJ-8 型対戦車ミサイル、YL-1A 型無人機を最も早く使用した国家になった。

米国の軍事装備品が圧倒的にインドに進出したのは、両国の戦略的關係が進展したからである。一方米国は、市場からロシアの軍事装備品を排除する目的を達成した。政治的に見ると、米国の対インド武器輸出は、実際上一石二鳥の効果がある。第一は中国包囲網の形成である。この点はインドの姿勢と同じである。したがってインドは、中国包囲網に米国を引き込み、米国は中国包囲戦略網に積極的にインドを引き込んだ。そして武器輸出は、軍事協力関係をさらに軍事同盟レベルにまで高める積極的效果をもたらした。米国とインドは、毎年、海上と空中で軍事演習を行い、F-15 と SU-30MKI 戦闘機が何度も空中での聯合訓練を行う。

このほか、米国の対インド武器輸出は、パキスタンに対し相当の政治的、外交的牽制作用をもたらした。米国はインドを利用して、パキスタンと中国の協力関係及びパキスタンのテロリズムに対する姿勢を牽制し、一旦、パキスタンのテロリズムに対する圧力が消滅した場合、米国は大きく一歩踏み出すことになる。米国はインドに対し更に高級な軍事装備を輸出しパキスタンを牽制するであろう。

言い換えれば、米国とインドの軍事協力の目的は、第一は中国を、第二はパキスタンを牽制するためである。ロシアに対しては、大きな戦略的牽制作用はもたらさず、ロシアの軍事装備品市場に損害を与えただけである。

次の段階の対インド武器輸出はすでに開始された。インドは、15 機の CH-47F 型輸送ヘリの輸入協議を完成させようとしている。これは、今後 5 年間の優先事業である。またこれはインドが初めて輸入する米国製輸送ヘリであり、ロシ

アの MI-16 型大型ヘリが入札の機会を失う可能性があることを意味する。インドが米国製装備品を受領する毎に、ロシア或いは欧州が同種の武器市場を失うことを意味する。不思議なことに、インドは技術移転と装備品の現地組み立てを重視する政策を採っていたにもかかわらず、米国から購入した装備品については、技術移転も現地組み立ても要求していない。

また同様の政治的、地縁戦略的な理由から、米国は、インドが積極的に開発してきた大陸間弾道ミサイル及び長距離弾道ミサイル防御計画に反対していない。これは、双方が相手を戦略核攻撃の目標にしておらず、それどころか今後、弾道ミサイル防御に関して技術協力の可能性があることを意味する。特にインドの地理的位置は、中国西部地区の第二砲兵部隊の DF-31A 型弾道ミサイル及び大型弾道ミサイル防御のためのフェーズド・アレイ・レーダーの活動動向を監視するのに有利である。米国がインドに PAC-3 型 TMD を売り込もうとするのはこれらの強い意図がある。

以上